

- ③ 誤答のつけ方が工夫されており、選択肢の選び方にも注意が必要。
(卒業試験、模試その他でも、選択肢の選び方に慣れてもらう必要がある。)
- ④ 厚労省としては、“医師国家試験合格者”を絶対評価的に決めているのというよりは、相対評価的に割と合格者数を予測しながら決めている。
- ⑤ 英語問題や一般教養問題なども出される傾向あり。
- ⑥ 全国的にポリクリ移行前にうける“CBT (computer based training or testing)；コンピューター、ウェブを利用し基礎力のチェックが行える試験”をしっかりと身につけさせることで、後のポリクリや国家試験にも良い影響を与えられる。
- ⑦ 卒業試験で卒業生数を絞ったりすると、“母校のために働く！”という気概を失わせ、母校の大学に残らなくなってしまう可能性が大と思われる。(塩沢先生のご意見)
- ⑧ 例年低い“過卒生の合格率”を上げるために(一年間勉強の集中力を維持するために)は、予備校の利用や毎日の規則正しい生活リズムの維持が重要であろう。
- ⑨ 現役生にも合宿を行ってる大学有り、成果を挙げている。(国公立2～3校、私立 約15校)……“5年次終了直後”から始まる、数回の合宿。参加し

て良いのは“各試験で悪い方から25名”のみ！(それ以外の方は、参加したくても参加不可。それらの人は国試全て合格！した実績あり。)

……等々その他多くの情報を伺え、“医師国家試験”対策の重要性を肌で感じた有意義な講演会でした。

聴衆であられた教授、その他の先生方からも、「基礎系講座の問題の作り方」や「合宿について」や「チューター制」、「CBTについて」等の質問が出ました。

今後、琉球大学医学部医学科の国家試験合格率を上げるために、学生のみならず大学、教官、指導医、皆が取り組むべき課題が色々と浮かび上がってきた数時間でした。

